

2025.10.18 (土)

日本医師会女性医師支援・ドクターバンク連携
北海道・東北ブロック会議（宮城県）

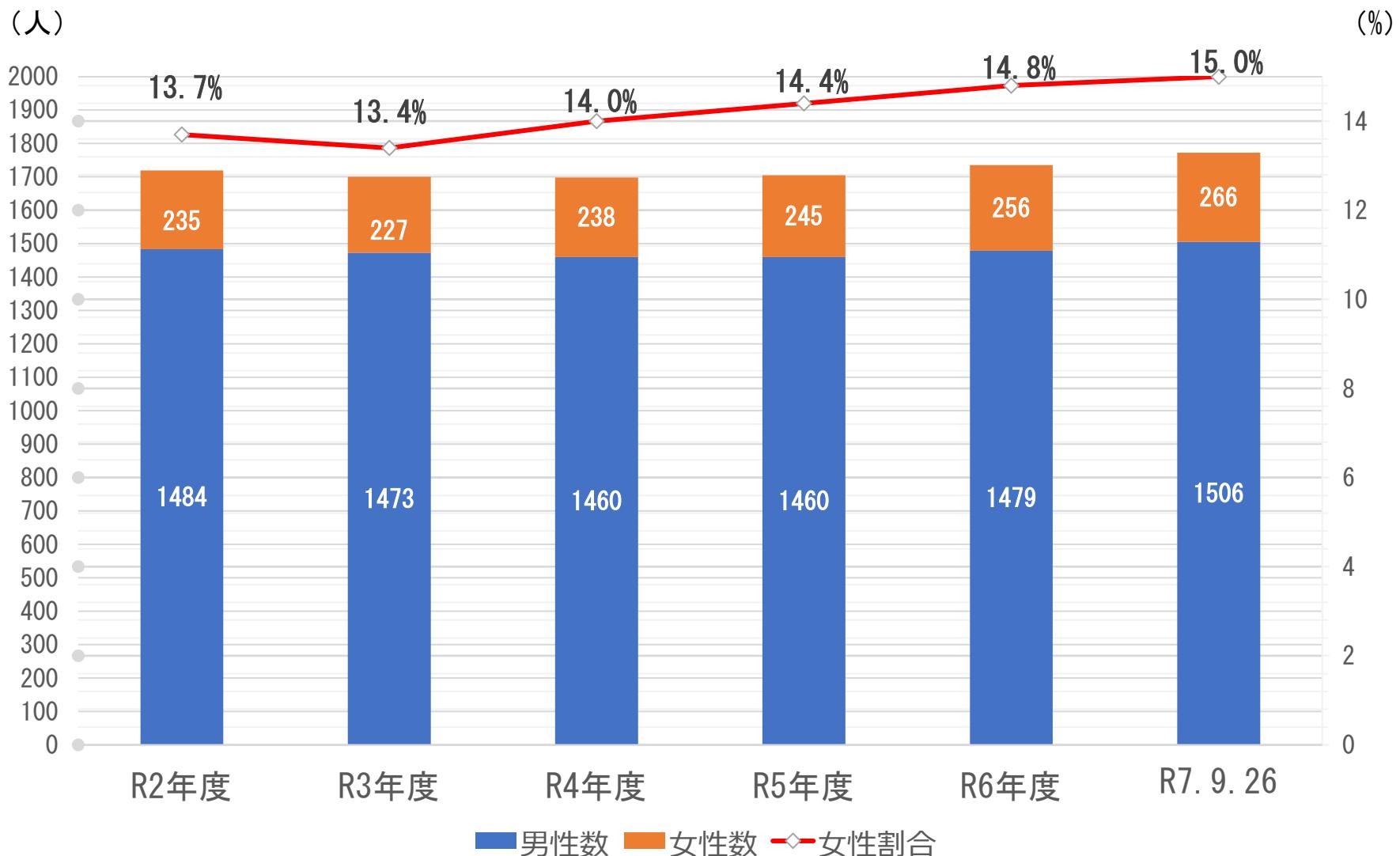
医師バンク・女性医師支援の取り組み



山形県医師会

山形県医師会
副会長 橋爪 英二

山形県医師会会員数の推移



医師バンクについて

山形県ドクターバンク事業

山形県の医療機関に円滑に就業できる体制を構築することにより、山形県における医師確保対策に資することを目的として、山形県医師会が厚生労働省から職業紹介の事業認可を受け、平成18年11月より実施。

実施にあたっては、山形県より委託を受け、インターネットを利用して県内の病院や診療所で勤務を希望する医師の登録を受け、事前に求人登録を行っている医療機関に紹介・斡旋を行う。

令和5年度末で終了

山形県ドクターバンク事業



令和6年度から実施

医業承継支援事業

求職者、求人登録を行っていた医療機関には
「日本医師会女性医師バンク」を紹介

県からの補助金

山形県ドクターバンク事業

過去の就業実績

(人)

3

2

1

0

平成18年からの累計実績

常 勤 : 4名
非常勤 : 10名

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
■ 常勤	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 非常勤	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0

■ 非常勤 ■ 常勤

女性医師支援について

山形県医師会の女性医師支援

《山形県女性医師支援ステーション(県委託事業)》

- ・子育て・家庭生活と両立できる環境整備
- ・女性医師へインタビューを実施し、ロールモデルの紹介や後輩医師へのアドバイスをHPに掲載
- ・育児中の医師が安心して継続勤務できる環境整備に向けて、育児中の医師への支援状況及び勤務環境に関するアンケート調査を実施

育児中の医師支援

育児中の医師支援に関するアンケート報告 -山形県内における現状と課題-

調査の対象: 山形県内の病院(66病院)

中学生以下の子どもを持つ医師(性別不問)

調査の方法: GoogleフォームによるWebアンケート調査

調査の目的: 育児と勤務の両立状況の把握

支援制度に対するニーズを明らかにする

回答数: [病院] 66病院中65病院から回答

そのうち、31病院は育児中医師の該当なし

回答率 98.5% ※有効回答は41病院

[個人]有効回答数 158件(男性医師:126件、女性医師:32件)

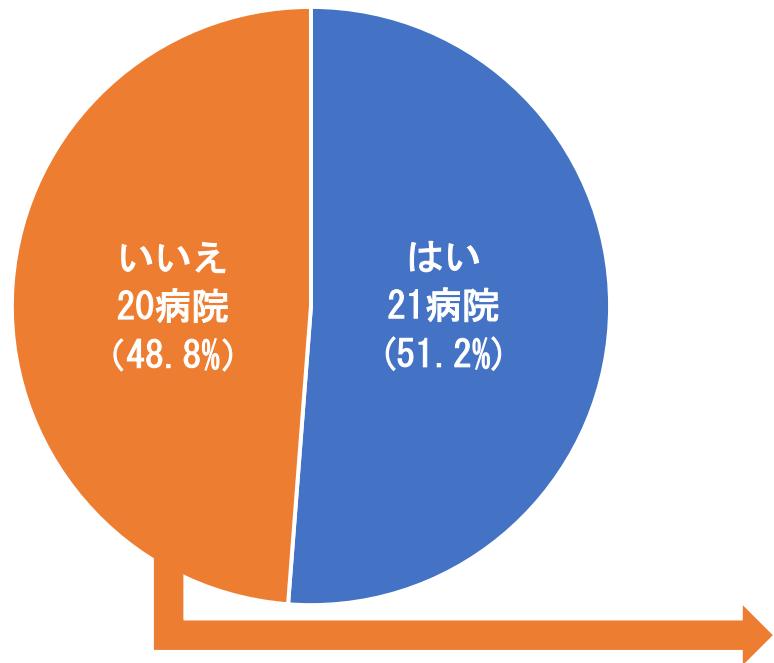
県内の該当医師数 503名(男性医師:434名、女性医師:69名)

※該当医師数は、各病院の事務担当者による申告を基に集計

回答率 31.4%(男性医師29.0% 女性医師46.4%)

病院側アンケート 院内保育の状況

1-1 貴院では「院内保育施設」を設置していますか



「いいえ」の場合

- 1-9 将来的な設置予定はありますか。
(1)はい(0病院)
(2)検討中(0病院)
(3)ない(20病院)

[備考]

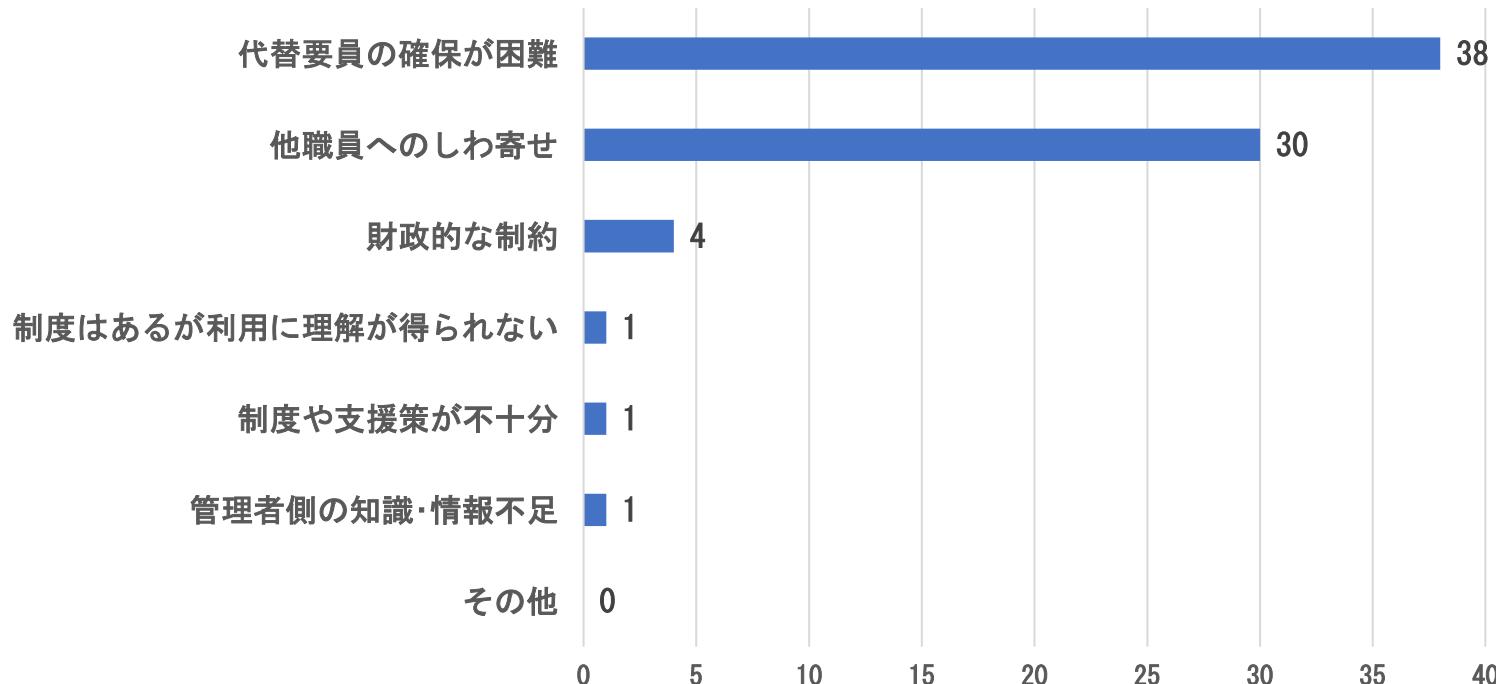
- ・令和5年まで設置していたが、利用者が少なく休止中
- ・提携保育園を利用

POINT!

院内保育施設は半数のみ、今後の新設予定ゼロ

病院側アンケート 勤務制度と課題

2-8 育児中の医師に対する支援・勤務配慮を行う上での課題は何ですか

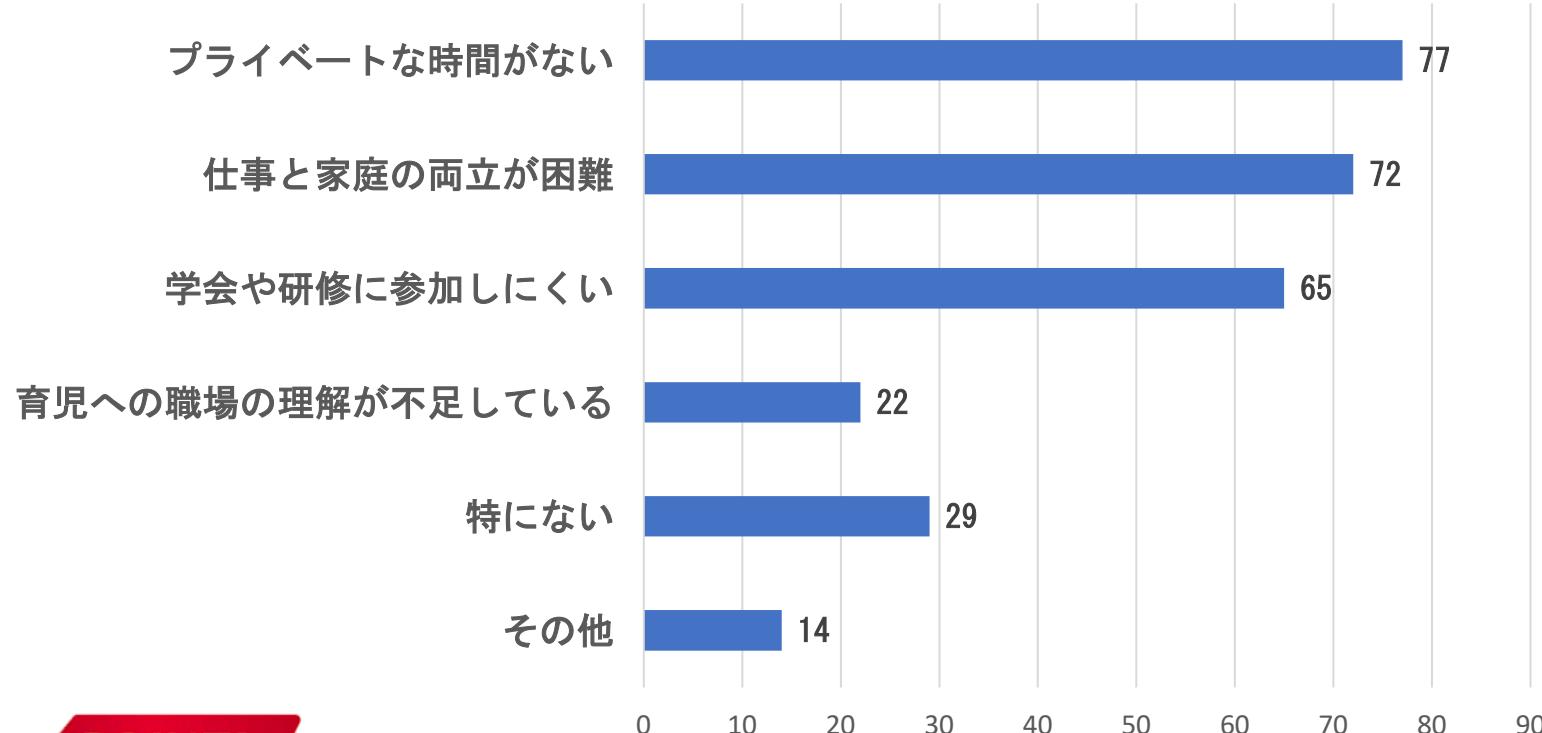


POINT!

育休・時短制度は整備 → しかし代替要員不足が深刻

医師側アンケート 日頃の悩み

1-9 日頃感じている悩みは何ですか(複数回答可)

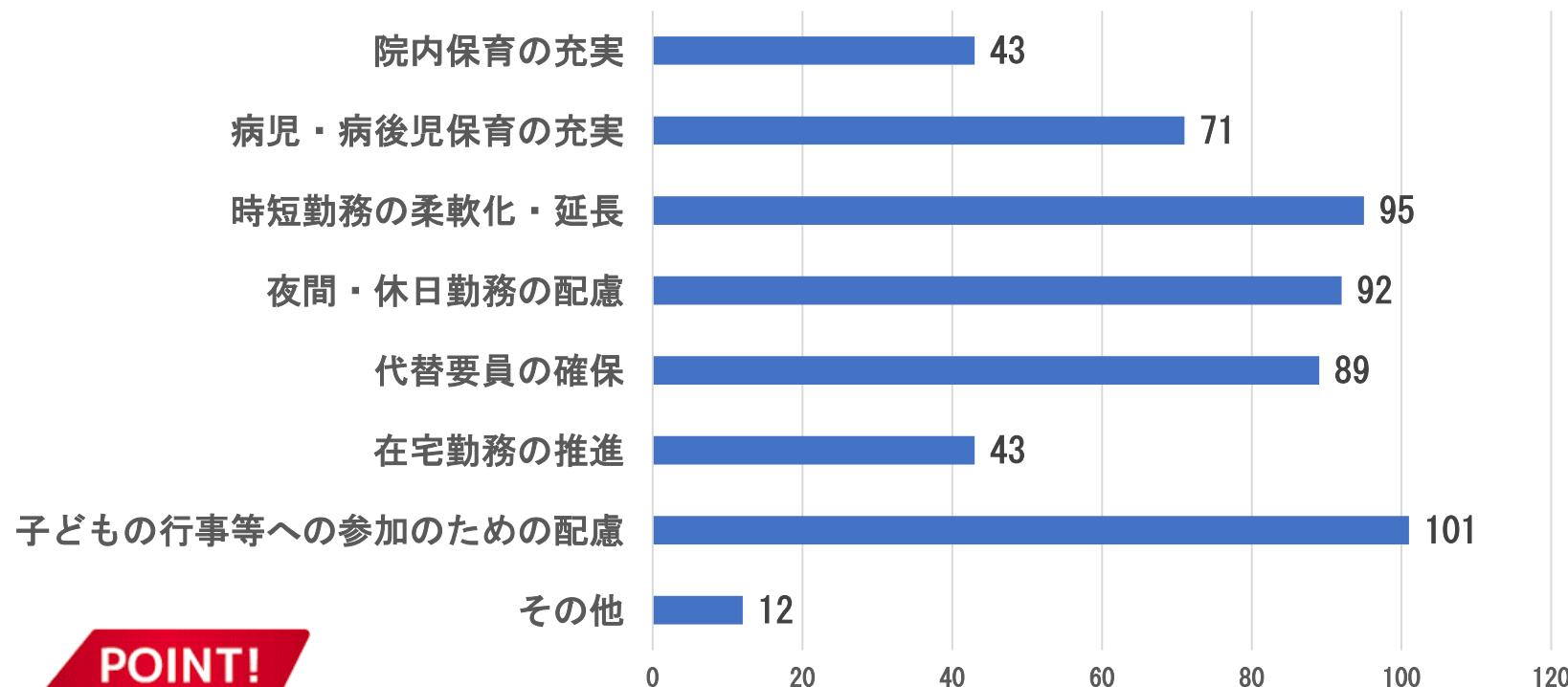


POINT!

最も多い悩み: プライベート時間なし、家庭との両立困難

医師側アンケート 必要な支援

3-2 どのような支援があれば、育児と医師としての勤務の両立がしやすくなると感じますか(複数回答可)

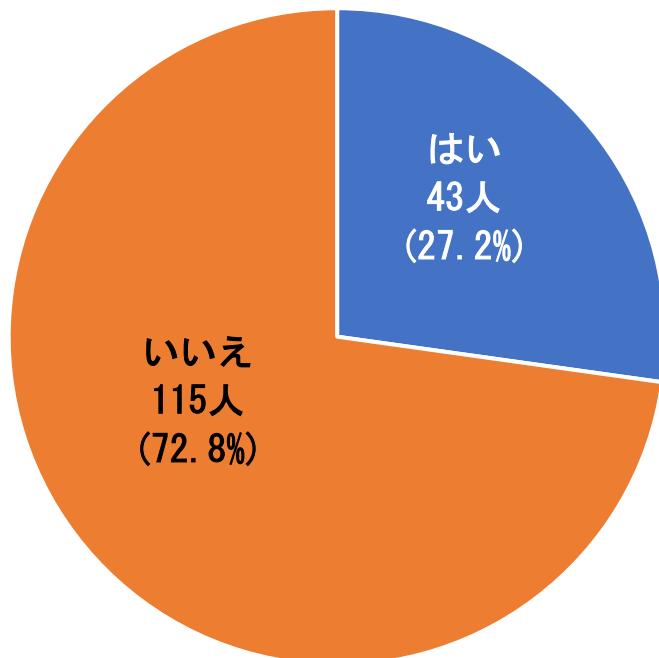


POINT!

ニーズは代替要員・柔軟な勤務・子どもの行事配慮

医師側アンケート キャリアへの影響

3-5 子育てを理由にキャリアの選択肢が狭まっていると感じたことはありますか



POINT!

43人が「キャリア制約を感じる」と回答

〈自己研鑽・専門性向上の機会喪失〉

学会・研修会・研究会への参加が困難

〈時間的制約によるキャリアの制限〉

休日や時間外労働に対応できず、キャリアに必要な活動を断念

〈人事異動・勤務地選択の制約〉

遠方の講習や異動が難しく、専門資格取得に支障が出る

〈精神的・経済的・制度的な壁〉

育児と仕事の両立による時間的余裕のなさと精神的疲弊

課題の共通点

《考察》（アンケート結果から見えたこと）

- ✓ 育児と勤務の両立は「時間不足」「制度が使いづらい」など深刻な制約あり
- ✓ 制度は存在するが、給与減や職場の雰囲気により活用が難しい
- ✓ 代替要員不足・急な休みに対応できない体制 → 制度と現場運用の乖離
- ✓ 育児中の医師の急な休みをカバーするため、他の同僚に業務負担が偏り、不平・不満も生じている
- ✓ 女性医師に負担が集中し、キャリア制約が顕著。男性医師の育休取得も進まず
- ✓ 一方で「育児理解が広がってきてている」との前向きな声もあり、好事例の共有が重要
- ✓ 結論として：制度面・職場風土・人員体制の改革が不可欠

POINT!

制度はあるが、代替要員不足と職場風土で使えない

提言・まとめ

《提言・今後の方向性》

柔軟な勤務体制

- ・フレックスタイム・時差出勤・短時間勤務を整備
- ・当直・日直の調整による子育て世代への配慮

公平な職場づくり

- ・カバーする同僚への手当・評価制度
- ・「特別扱い」とならない職場風土

職場風土・意識改革

- ・育児は性別を問わない「共同責任」
- ・制度を建前でなく実効的に運用

POINT!

柔軟な勤務・病児保育拡充・男性医師の育休推進

病児・休日保育の充実

- ・院内・地域の病児保育の強化
- ・土日・軽度発熱時の対応制度

キャリア支援

- ・地域勤務でも専門医取得を可能に
- ・学会・研修参加の公平な機会
- ・キャリア再挑戦を支える制度

育児中の医師支援に関するアンケート調査報告書

山形県女性医師支援ステーションHPに掲載

<https://www.yamagata-joi-support-station.jp/>



ご清聴ありがとうございました